

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	単価の動き	・女性ファッションの秋物の動きは好調である。ジャケットやセーターなどの動きが昨年に比べて早くなり、すでに動きが始まっている。また、家具なども秋の模様替えということで、動き出している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年比8%増、3か月前との比較で2%増と伸びており、買上点数は変わらなくても、生活における上質化が進んでいる。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数は変わらなかったが、客の1回当たり購入量が増えたため、売上が増加した。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・既存店の売上が前年比5%増と好調である。引き続き薄型大画面テレビが全体を引っ張り、DVD、デジタルカメラもまた良くなってきた。パソコンは販売台数、金額とも徐々に前年を大きく上回り、長かった不振を抜け出した。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・団体旅行の増加などにより、売上が前年比で10%増加している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・来客数は前年に比べて月の後半が若干増加している。また、団体客が少し動き出した。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場の来場者数は前年の20%増、受注も同50%以上の増加となっている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・近隣のファッションビルのリニューアル効果も加わり、2回の3連休の人通りは北陸3県からの女性客でにぎわった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・暑い日が長く続いたため、秋物に対する客の購買意欲がなかなか感じられない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・例年9月は官公庁の予算取りや民間からの需要がかなり発生する月であるが、今年は非常に少なかった。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・余暇を過ごす時間が減少傾向にあり、男性客の来店が減少している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・月前半は30度を超える残暑の厳しい日が続いたため、秋物の動きが全般的に鈍く、売上は前年を下回った。中旬以降は気温が低下したことから秋物がようやく動き出した。しかし、概して前年に比べて客単価は低く、購買意欲も低調に推移し、売上は前年の92%止まりとなった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・最近、店舗の改装を行ったため、安い商品を目当てに来店客は増えているが、安い商品の販売数が増加し、客単価は低下している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・景気の上向き傾向の話が伝わってくるが、客の食品に対する日々の買物ではぜひたく志向がまだみられない。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・来客数、買上点数は変わらないが、一品単価が下がり続けているため、客単価が低下している。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・レジの通過客数は前年並みであるが、客単価、買上点数共に前年を下回っている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は微増傾向が続いているが、客単価は持ち直す傾向がみられず、全体としては変わらない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・9月は天候にも恵まれたが、来客数は前年をわずかに下回った。客単価は若干下がり気味であるが、周辺のイベント開催にも助けられ、なんとか前年をクリアした。ただ、イベントのない日は来客数、売上とも芳しくなく、全体としては変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・月の前半は暑く、秋の立ち上がり感が若干遅れたため、客の購買態度も慎重であった。
	自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・客は欲しい物しか購入しない傾向が続いており、売場で「プラス1品」を促進しているが、成果が上がらない。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・市中心部のステーキ専門店、料亭などの売上は下げ止まりとなってきたが、郊外店は回復の兆しがまだみえない。	

		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・愛知万博の影響で来客数は減少したが、この特殊要因を除けば変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は衆議院議員選挙のため夜の繁華街は閑散とし、後半は2度の3連休で利用客が少なく、売上が減少した。休みが多いと、通勤や病院の送迎客が少なく、厳しい状況である。
		住宅販売会社 (総務担当)	来客数の動き	・イベントの集客数は前年比マイナスであるが、内容の伴った客につながっている。また、イベントに話題性がないと客の動きは鈍い。
やや悪くなっている		百貨店 (営業担当)	お客様の様子	・9月は季節の変わり目で、ファッション衣料では残暑対策と秋物の展開のバランスが難しい時期である。今年は残暑のため20日まで夏物が売れ、秋物の販売が遅れた影響から単価が下落し、売上が上がらなかった。
		乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・来客数や引き合い件数は8月下旬以降極端に減少しており、商談に入っても成約になかなか結びつかない。
		乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・販売台数の前年比減少に歯止めがかからない状態が続いている。高額車両が中心のディーラーであるため、ガソリン価格の上昇が原因の1つとなっている。
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・チラシ、新聞などで広域にわたって販売促進を展開しているが、集客につながらない。売上も前年を下回っている。
		スナック (経営者)	来客数の動き	・例年9月は売上の悪い月であるが、今年は選挙も重なり、来客のない日が2、3日もあった。後半になって団体の予約も入ったため、売上は前年同月比で15%増となった。
		観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・低価格の客層の獲得はまずまずであるが、高価格層は低調で、また団体の動きが少なくなっている。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門、レストランの通常営業、レストランウェディングが好調な反面、昨年の大型宴会に代替する宴会が取り込めなかった一般宴会と受注件数の減少による婚礼宴会が大きな減収となり、全体では前年を若干下回る見通しである。3か月前との比較では一般宴会の伸び悩みにより減収となっている。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・客の予約状況は低迷し、売上も減少している。
		通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・9月は携帯電話の新機種や新サービスなどの開始がなかったため来客数が激減した。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・住宅に関する優遇税制の縮小に加え、選挙前から話題になっているサラリーマン増税など、先行きがみえない不安感から、客の住宅計画が進みにくい状態である。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・前年と比較して、新築展示場の来客数の減少が続いており、増改築部門も同様に減少している。ただし、少額のリフォームは堅調に推移している。	
悪くなっている		商店街 (代表者)	お客様の様子	・当地区は全国屈指の車社会であり、原油高騰によるガソリン代の値上げが家計を直撃し、他の消費に回らなくなっている。気候が1か月ずれている感があり、特に衣料品は秋・冬物への移行が例年になく遅れている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・閉幕に伴う愛知万博の駆け込み利用のせいか、来場者数は前年に比べて1割以上の減少となっている。3か月前との比較でも厳しい状況にある。
企業動向関連	良くなっている	一般機械器具製造業 (経営者)	それ以外	・受注量・販売量、受注価格・販売価格などの動きが強含みで推移している。そのほか、工作機械に欠かせないツーリング (切削工具) の業界が絶好調である。5月から入手難となり、それ以降、当社並びに販売先各社でも入手が更に困難になっている。
	やや良くなっている	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・衣料関係の冬物の動きは前年よりやや良い。
		司法書士	取引先の様子	・事業用資産の購入や個人住宅等の不動産取引が増加している。
変わらない	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・衣料関係の消費に元気がないため、受注がなかなか決まらない状況が続いており、量的な不安が積みまわっている。	

		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年のことではあるが、上半期末の9月ということで公共工事の発注量が増え、受注もできた。しかし、春から夏にかけて例年以上の受注減となったため、経営そのものを好転させるまでには至っていない。
		建設業（総務担当）	競争相手の様子	・建築工事の見積件数は増加傾向にあるものの、し烈な受注価格競争が依然続いている。また、下請業者も工事増加による繁忙から受注価格を引き上げる傾向がみられ、工事損益面では厳しさを増してきた。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・乗用車の売行きが好調である。とりわけ高級車の販売が伸びている。また、宅地造成の計画も落ち込む心配がない。総じて景気上昇が個人消費に回ってきている感がある。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量はやや増加傾向にあるが、受注単価は低下傾向にある。
	やや悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の商談や問い合わせの件数がかなり少なくなっている。同業者の情報も同じように悪くなっている。
	悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	それ以外	・原料価格をはじめ燃料費、それに伴う各種経費の増加が企業努力を超え、業界全体の収益を悪化させている。受注量に問題はないが、原価の高騰に伴う製品価格の値上げが思うように進んでいない。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人募集件数が3か月前に比べ約15%増加している。パート求人の増加が中心であるが、製造メーカーの正社員の募集も増えつつある。派遣、業務請負企業では、人材が集まらなくなっているとの声も聞く。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・9月に入り派遣求人、紹介求人が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・依然として派遣、契約、パートなどの雇用需要が多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で16.2%増加しているものの、製造業全体では同21.6%減少とマイナスが続いている。反面、情報通信業では同108.3%、サービス業では同38.5%増加している。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・9月の求人広告は前年に比べ1割以上減少している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人件数の減少は求人市場の状況だけでなく、新しい求人媒体の発行などの影響を受けている可能性がある。
悪くなっている	-	-	-	